

～男女共同参画社会の実現に向けて～

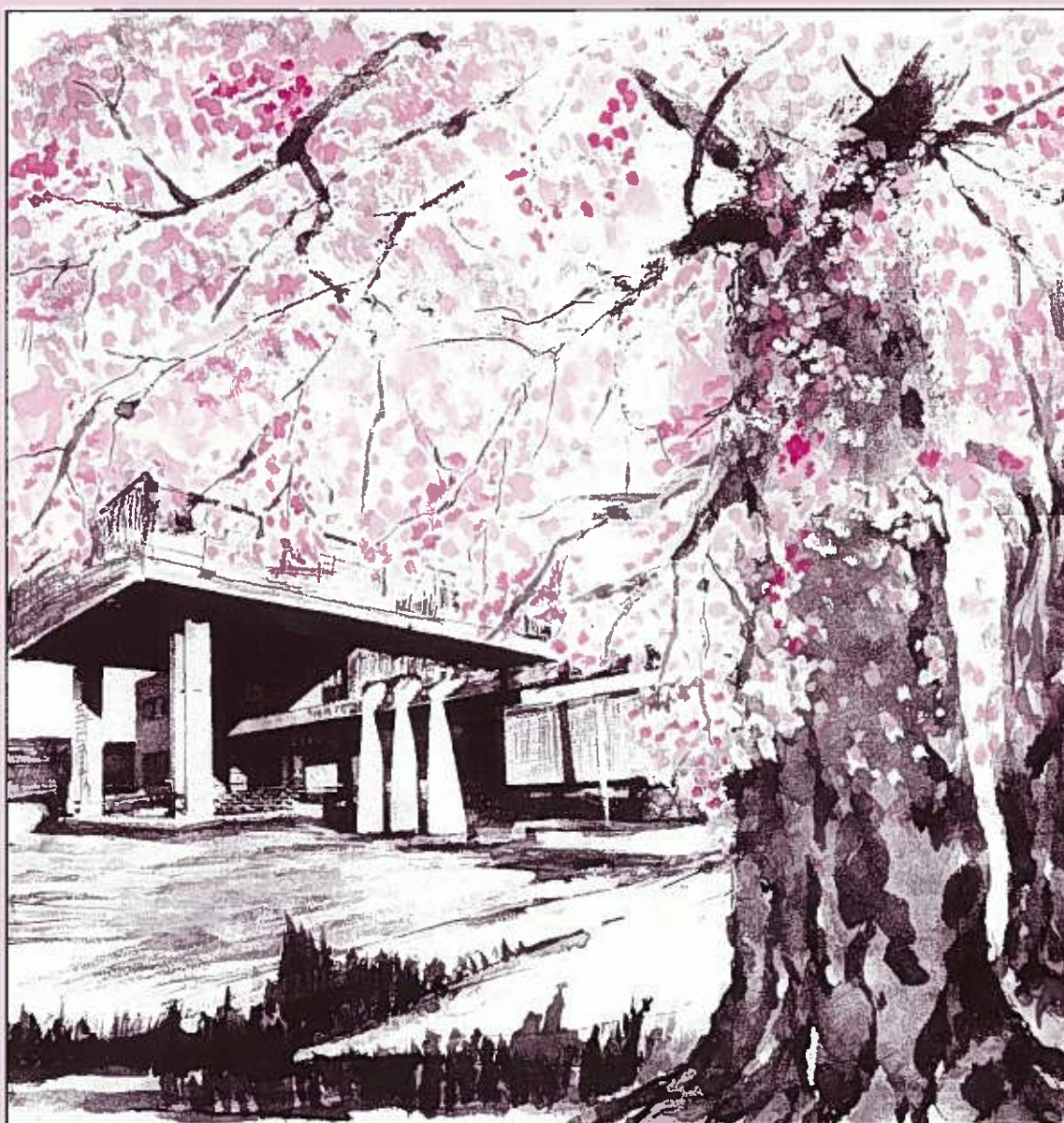


幸手市のマスコットキャラクター
さっちゃん

モア MORE

ひとひと
幸手市女と男の情報紙
第19号 2014

モア (MORE) とは、女と男がより豊かに、よりすばらしい
男女共同参画社会実現への願いを込めて命名しました。



絵・デザイン 三澤昭人 作

- ◆女と男の共生セミナー
- ◆日本女性会議2013あなん
- ◆第22回埼葛人権を考えるつどい
- ◆男の料理

平成25年度 **ひとひと** 女と男の共生セミナー

平成25年度「女と男の共生セミナー」は、12月4日(水)に幸手市立幸手中学校において開催しました。今回の講師は、福島大学特任准教授で東日本大震災において、福島県内最大規模【ビックパレットふくしま避難所】の県庁運営支援チームの責任者として運営に携わってきた天野和彦先生です。



講演

男女共同参画からみた防災・減災 ～東日本大震災の時にふくしまでおこったこと～

講師：天野和彦氏

地震、津波、原発事故。今でも福島では避難生活を送り、ふるさとに戻ることができない多くの人たちや、復興、復旧がほとんど進んでいない地区が数多くあります。避難生活の支援活動を通して見えてきたことがたくさんありました。

～心の復興～

避難している人の心が元気になる、強くなるのが大事なこと。
“困った時はおたがいさま(おたがいさま)”

～大事なのは自治～

人を救うのは人しかない。人と人とのつながりや交流を深め、自分たちで考え、話し合い活動できることが避難所生活では大事。プライバシーの保護から、女性の専用スペースが生まれたり、足湯やサロンから笑顔が戻ったり。

～災害があって気づいたこと～

誰もが幸せになりたい気持ちがある。誰もが人間らしく生きる権利をもつ。災害に強いまちとは、人と人とのつながりが強いまちであるということ。人はひとりでは弱い。どのように連携していくか。準備している以上のことはできない。防災にむけての地域の取組が必要。

このセミナー当日の12月4日は2011年3月11日の震災からちょうど1000日目。震災の起きた2時46分体育館で全員起立し黙祷をささげました。

ご協力いただいた幸手中学校の先生方、熱心に話を聞いてくれた生徒の皆さん、保護者の皆様ありがとうございました。

【生徒の感想から】

- ・被災地でいろいろな取り組みをしており、人と人が助け合い頑張っていることがわかった。僕たちも協力し合い、素晴らしい幸手という“ふるさと”にしたい。
- ・みんなで協力し合う大事さ、自分たちで考え、実行することの大事さがわかった。1000日たった今でも復興がすすんでいない。震災前よりも住みよい国にしたい。

男女共同参画アンケート結果

幸手中学校生徒の皆さんに、次のようなアンケートを実施しました。(回答者数451名)
ご協力ありがとうございました。

	(女) H25【幸手中】(男)		(女) H24【西中】(男)	
●「男性は仕事、女性は家庭」といった考え方もありますがどう思いますか？				
・そう思う	22%	25%	9%	20%
・そう思わない	39%	39%	65%	46%
・どちらでも良い	39%	36%	26%	34%
●生まれ変わるとしたら男と女どっちが良いですか？				
・男の方が良い	24%	46%	36%	54%
・女の方が良い	28%	3%	29%	5%
・どちらでも良い	48%	51%	35%	41%

アンケート結果や生徒の感想から、女性と男性が対等なパートナーとして、家庭、学校、仕事、地域などあらゆる分野で、個性と能力を発揮して活躍できる社会づくりを進めていく努力が大事であると感じました。



日本女性会議 2013 あなん

～いきいき・わくわく・
小さなまちから新たなステージ～



平成25年10月11日(金)・12(土)、徳島県阿南市で第30回「日本女性会議(男女共同参画)2013あなん」が開催され、「おせったい」のころでおもてなしを受けながら参加しました。「女(ひと)」と「男(ひと)」がその個性と能力を発揮し、認め合い、協力していくことにより、あらゆる分野で活躍できる社会に、地方から実現することを大会実行委員長から決意が述べられ、市民、企業、行政の協働のもと、男女共同参画で運営する「あなん方式」が全国に発信されました。

本会議では地域が抱える様々な問題を男女共同参画の視点から考え、課題の解決を探り地域力の向上を図り、地域レベルでの女性の活躍促進を加速させていくことができるよう本音で話し合いました。

9つの分科会の1つ「ワークライフバランス(私の自慢)」では若い世代に迫る「仕事か家庭か？」の選択は現実社会の問題であり、少子高齢化が進む中、関心の高い課題です。雇用や賃金だけでなく、未だ社会に根強い固定的な性役割分担意識の問題など、様々な環境整備が必要で「意欲ある人が、多様な選択肢を持てる社会」を目指し、共に学び合いました。

2日目には料理研究家の浜内千波さんによる記念講演が行われ、「男女が織りなす食育～作り手の心・いただく心～」をテーマに楽しく健康でおいしい料理への熱き思いを聞かせていただきました。人間としての心の糧である食育。家庭料理を通じて次世代の担い手につなげていきたい。「料理ってこんなに簡単だったんだ」と言ってもらえるような、料理にかかる手間を減らしたり、メニューの工夫をして、男性も子どもも料理に取り組みやすい環境づくりに取り組んでいるお話は参加者の感性を大いに揺さぶりました。

第22回 埼葛人権を考えるつどい ～出会い・ふれあい・思いやり～

第22回「埼葛人権を考えるつどい」が、10月17日(木)アスカル幸手にて盛大に開催されました。

今回のつどいのテーマは「心」です。

さくらホールでは、心温まる演劇・合唱・リズム体操・マーチングバンド等の発表により、出演者と来場者の全員の心が一つになりました。

メインアリーナは、埼葛12市町の願いの短冊で大きく育った「埼葛・心の木」と埼葛12市町の児童・生徒による「10万人メッセージ」や折鶴、人権凧の展示、出店・展示団体の参加者により多くの人々が、語り合っ、ふれあい、心を育む広場となりました。

最後に幸手小学校合唱団と共に、参加者全員で「ふるさと」を歌い、フィナーレを迎えました。

来場者数のべ5,000人程の心の結びつきを深めた発表や展示は埼葛10万人の願いを大きな心に託し、被災地に届けることができたと感じた大会となりました。

このような大会を幸手市で行った意義は大変大きかったと思います。

次回は2014年10月16日(木)三郷市文化会館。第23回「埼葛人権を考えるつどい」が開催されます。



作って食べる楽しさ

「男の料理教室」

を見学しました。



「男の料理教室」という言葉を聞いてから久しいですが、現在幸手市内には7つの男の料理教室があるそうです。そこで、今回は2つの料理教室【味彩クラブとわかば会】を訪れました。

どちらも毎月1回、ウェルス幸手の調理室で料理を楽しんでいます。講師は、幸手市食生活改善推進協議会長の新井春子さんと推進委員の方々です。

味彩クラブの献立は、「豚肉と野菜の蒸し炒め・厚揚げと野菜の香味おろし和え・切干大根とひじきの当座煮・卵スープ」。

わかば会の献立は「手打ちそば・かき揚げ・筑前煮」。

どちらもボリューム満点です。参加者は1グループに4～5名に分かれた班になって料理をします。それぞれに役割分担があり、得意不得意の分野も補い合いながら、新井講師のアドバイスを素直に受け、器用に手際よく進められます。使った食器や用具も、その都度きれいに片付けられていきます。学習効果はかなり高いと感じました。

出来上がった料理は、昼食として皆さんと反省しながら食べ、残った物は家にお持ち帰りしています。

この教室にくるきっかけは、「退職したので」「地域の仲間作りとして」「もしもの時に・・・」「趣味になれば・・・」ということでした。

新井講師は、「食べることが大事。自分で作って食べることが大事。買ってきたものには心がない。」と言い切ります。

料理することに、男も女もないのだと断言するように思います。

この2つの男の料理教室を見学して、料理したり、食べたりする楽しさは、老若男女だれでも変わらないことを感じます。いろいろな年代で、いつでも、どこでも作る楽しさ食べる楽しさを体験し、それを積み重ねていくことが大事だと思います。



編集後記

平成25年度の男女共同参画社会の実現への願いを込めて「モア」をお届けします。今年度は8名が協力して編集しました。より多くの皆様方に読んでいただけるような紙面づくりに努めました。その内容について常に心がけていることは、幸手に関わる女性と男性が目指す3つの方向性です。①男女が共に個人として自立し、その個性と能力を発揮できる社会②対等なパートナーとして、共に支え合いながら、仕事や家庭生活に取り組める社会③互いに考え方や生き方を認め合い、家庭と地域社会の中で行動できる社会です。

皆様からのご意見、ご要望などがありましたら事務局までお寄せいただければ幸いです。

表紙の絵

幸手市が、これまで以上に性別に関わらず個性と能力を十分に発揮できる社会をめざしてほしいと願い、市役所と市のシンボルの桜を表現しました。